

## 内モンゴル植林活動の報告

一隅を照らす運動総本部は、中国・内モンゴル自治区での植林活動などに取り組んでいる長野県飯田市の「NPO法人草原の風（以下、草原の風）」の活動に協力して、2007年～2014年の間、植林ツアーへの参加者募集・派遣、植林費用や病院建設の資金援助、現地住民との交流などの事業を行いました。

草原の風は、内モンゴル出身の佐々木ハスゲレルさんが始めた植林活動を支援しようと、飯田市下伊那の有志により2004年に発足した団体です。

内モンゴルでは、草を根こそぎ食べる家畜のカシミアヤギの増加や温暖化に伴って、砂漠化が進んでいました。同地出身で、結婚して飯田市に



居住していた佐々木ハスゲレルさんは、変わり果てた故郷の姿に心を痛めて植林を考えつきました。草原の風は佐々木ハスゲレルさんとの出会いをきっかけに支援活動を始め、植林や医療機器の寄付、就学支援などを行いました。

当初、植林活動は現地の遊牧民から理解が得られませんでした。草原の風の地道な活動や現地メディアを使った積極的な周知により、緑化などは非現実的だと考えていた遊牧民たちにも緑化意識が芽生え、自ら本格的な植林に乗り出すようになって、次第に活動の大半が地元住民の手で行われるようになりました。

わずかな量の水でも育つヤナギやポプラなど422万本を植えた土地は967ヘクタールにも及び、住民たちは果樹産地を作るべく、リンゴやナシ、ブドウなどを植樹したり、井戸を掘ったりもしました。

草原の風の15年間の取り組みで、砂漠化した土地に緑が戻りつつあることなどから、植林活動は2018年5月で一区切りしました。2021年現在、草原の風はNPO法人の解散手続きに入る予定と聞いています。

この活動を通じて現地視察や植林活動に参加した人は、一隅を照らす運動総本部の関

係では述べ71人（総本部、比叡山高校生、駒込高校生を含む）に及び、植林活動の現地支援のために210万円を、内モンゴル病院建設のためにシュリゲ廟医院へ270万円を、それぞれ寄贈しました。

ここに、植林ツアーにご参加くださった皆さん、比叡山高校や駒込高校の生徒の方々に感謝申し上げ、当活動の報告とさせていただきます。

最後に、内モンゴル自治区の大地に豊かさが戻り、人々が幸せにお暮らしになることを祈念いたします。

## < 活動概略 >

### ●2006年11月

内モンゴル出身で飯田市在住の佐々木ハスゲレルさんが天台宗務庁を来庁。総本部に植林支援を依頼。

### ★2007年

5月6日～11日  
草原の風主催の「第4回内モンゴル植林ツアー（全参加者31名）」に総本部長が参加。オトクチで現地の人たち約150人による柳の苗木とポプラ2000本の植林活動を視察。また、過去3回に植林された場所を視察した。



ソリゲミョ寺院（ラマ教）参拝や林業局との交流夕食会にも参加。モンゴル病院・オトクチ中学校を訪問。活動支援金30万円の目録をオトクチ人民政府副市長シャンリーチャン氏へ贈呈した。

草原の風は、内モンゴル出身で長野県飯田市在住の佐々木ハスゲレルさんが始めた植林活動を支援しようと、飯田市下伊那の有志により平成16年に発足。これまでに3回の植林ツアーを実施し、柳や薬草など約10万本を植林している。

● 2007年11月29日

天台宗務庁で開催された「第7回一隅を照らす運動公開講座」で、NPO法人「草原の風」事務局の佐々木勲氏が、内モンゴル地区の緑化・植林活動について講演。佐々木ハスゲレル夫人によるモンゴル民族楽器の馬頭琴などの楽器演奏が行われた。



★ 2008年

5月5日～11日  
草原の風主催の「第5回内モンゴル植林ツアー（全参加者24人）」に、総本部次長ら2名が視察参加。現地の人約100人による植林活動や以前に植林された場所などを視察。ソリゲミョ寺院（ラマ教）参拝や林業局との

交流夕食会に参加。オトクチ専門学校の日本語授業を見学。植林活動支援金30万円の目録をオトクチ林業局局长ボージンサン氏へ贈呈。内モンゴル病院建設支援としてシュリゲ廟医院へ支援金70万円の目録を贈呈した。

★ 2009年5月5日～11日

草原の風主催の「第6回内モンゴル植林ツアー（全参加者22名）」に総本部長ら6名が参加。オトクチ市外の植林地帯で、現地の人々約100名と共に400本を植林。総本部が地域の医療向上のために支援しているシュリゲ廟医院を視察。シュリゲ廟医院へ支援金100万円の目録を贈呈。シュリゲ寺院（ラマ教）参拝



や林業局との交流夕食会に参加。以前に植林された場所などを視察した。また、植林活動支援金30万円の目録をオトクチ林業局局长ボージンサン氏へ贈呈した。



★2010年5月5日～12日  
草原の風主催の「第7回内モンゴル植林ツアー（全参加者40名）」に総本部長ら13名が参加。現地のラマ教寺院僧侶・林業局職員・高校生の約60名と共に柳など約1000本を植林。植林活動支援金30万円の目録を贈呈。シュリゲ廟医院の建設支援金（最終）100万円の目録を責任者のチョンクル師（ラマ教寺院職）へ贈呈し、施設内の現状を視察。シュリゲ廟医院や林業局関係者との交流夕食会に参加。また過去に植林された木の成長や緑化の成果も確認した。

★2011年 東日本大震災のため、参加を取りやめ

★2012年5月6日～10日  
草原の風主催の「第9回内モンゴル植林ツアー（全参加者36名）」に総本部長ら12名が参加。比叡山高校生と駒込高校生6名も参加。オトクチで現地の人々約100名と共に約1000本を植林。シュリゲ寺院（ラマ教）参拝や子どもたちや村人との交流、内モンゴルと日本の学生の交流会などを実施した。また、植林活動支援金30万円の目録をオトクチ植林事務局副局長ムーリン氏へ贈呈した。



★2013年5月6日～10日

草原の風主催の「第10回内モンゴル植林ツアー（全参加者22名）」に12名が参加。比叡山高校生と駒込高校生4名も参加。ウーシンキとオトクチで植林活動を行い、現地の人約100人とアシチャの苗約1000本、柳約500本を植林。シュリゲ寺院（ラマ教）参拝や現地の子どもたちとの交流、内モンゴルと日本の学生の交流会などを実施した。チャジャ砂漠の植林活動支援金30万円の目録を植林事務局責任者スチント氏へ贈呈した。



★2014年

5月6日～10日

草原の風主催の「第11回内モンゴル植林ツアー（全参加者19名）」に12名が参加。比叡山高校生と駒込高校生4名と引率教諭1名がツアーに参加。ウーシン

キで、現地の人々約80名と共に柳の木や松の木約1万本を植林。植林活動や食事を通して交流を深めた。総本部次長から植林活動支援金30万円の目録を植林事務局責任者スチント氏へ贈呈した。

一隅を照らす運動総本部は本年をもって、草原の風の「内モンゴル植林ツアー」への参加を終了。草原の風の植林活動も2018年5月で終了した。



(令和3年12月 一隅を照らす運動総本部 作成)